

無形文化財の保存・活用に関する調査研究(無 01-06-1/5)

目 的

わが国の無形文化財、並びに文化財保存技術の伝承実態を把握し、その保護に資するため、伝承の基礎となる技法・技術の実態や変遷の調査研究、及び資料の収集を行い、現状記録の必要な対象を精査して記録作成を行う。

また、無形文化遺産分野についての国際的研究交流として、アジア地域を中心とした諸外国の関係機関との具体的交流を推進するための協議を行う。

1 無形文化財、文化財保存技術の伝承研究

成 果

文化財保護委員会が作成した音声資料について調査を行い、善竹弥五郎師の狂言謡、鶴沢清八師の「義太夫節の種類と解説」について、第4回東京文化財研究所総合研究会、及び第1回無形文化遺産部公開学術講座で発表した。

岡山県瀬戸内市内の弘法寺遍明院所蔵の鼓胴(旧牛窓町指定文化財)及び太鼓樽について調査を行い、『無形文化遺産研究報告』に発表した。この鼓胴は、雅楽鼓胴から能楽鼓胴へ移行する過渡期の作例と考えられるが、鼓胴の表面に奉納した年月が刻まれており、鎌倉時代に使用されていたことが確認された。

無形文化遺産部所蔵の音声資料、明治・大正期の歌舞伎絵はがき・プロマイドを整理し、所蔵一覧等を『無形文化遺産研究報告』に概説した。また、熊本放送局所蔵のSPレコードについて現物調査を行った結果、これまで所在が知られていなかった歌舞伎SP数点が、試聴可能な状態で保管されていることを確認した。

選定保存技術「文楽人形髪・床山」保持者の名越昭司氏、「能楽大鼓(革)制作」保持者の木村幸彦氏から、聞き取り調査を実施した。

工芸技術に関しては、染織及び陶芸に関する先行研究の把握と資料収集を行い、染織の素材と製作技術の科学的分析、陶芸に関する第二次世界大戦後の展覧会の状況について調査研究を行った。

論文等掲載数 4件

- ・高桑いづみ「過渡期の鼓胴その後」 『無形文化遺産研究報告』1 pp.197-206 07.3
- ・飯島満「吉田兵次『とやぶれ』」 『無形文化遺産研究報告』1 pp.51-62 07.3
- ・飯島満「歌舞伎SPレコード(明治大正期)図版解説」 『歌舞伎 研究と批評』38 pp.68-71 07.2
- ・鎌倉恵子「〔聞き書き〕人形浄瑠璃文楽の髪・床山の世界 名越昭司師に聞く」 『無形文化遺産研究報告』1 pp.178-159 07.3

発表件数 3件

- ・飯島満、高桑いづみ「文化財保護委員会作成の無形文化財録音資料をめぐって」 東京文化財研究所総合研究会(第4回) 東京文化財研究所セミナー室 06.12.5
- ・飯島満「鶴沢清八の義太夫節解説」 第1回無形文化遺産部公開学術講座 江戸東京博物館 06.12.19
- ・高桑いづみ「善竹弥五郎の狂言謡」 第1回無形文化遺産部公開学術講座 江戸東京博物館 06.12.19

2 無形文化財記録作成事業

成 果

近年の伝承に変化が著しい宝生流謡曲について、昨年度にひきつづき、流儀の最長老今井泰男師による番謡の音声記録を行った。

収録したのは以下の23曲である(収録順)

「遊行柳」「隅田川」「木賊」「三井寺」「砧」「江口」「俊寛」「実盛」「求塚」「定家」「鉢木」「姨捨」
 「安宅」「鳥追」「雨月」「通小町」「蝉丸」「草子洗」「頼政」「松風」「朝長」「山姥」「自然居士」
 連続口演の機会が激減している講談について、宝井馬琴師と一龍斎貞水師による実演記録を作成した。
 『甲越軍記』一騎打ち・大団円(宝井馬琴)
 『太平記』新田義貞の兜・大楠公桜井の訣別(宝井馬琴)
 『仙石騒動』発端・飯倉の騒動・神谷転の義心(一龍斎貞水)
 『緑林五漢録』霧太郎と鼠小僧の出会い・霧太郎の仇討本懐・嵐山の花見(一龍斎貞水)

3 公開学術講座の開催

成 果

12月19日、江戸東京博物館ホールにおいて「1950年代の義太夫節と狂言謡 文化財保護委員会作成の録音資料をめぐって」と題して第1回無形文化遺産部公開学術講座を行った。文化庁の前身である文化財保護委員会が昭和25年度から作成した音声記録は、今日伝承されていない楽曲や後に重要無形文化財(各個認定)保持者(いわゆる人間国宝)として認定される名手たちの演奏を多く含む、貴重な録音である。大蔵流狂言師の茂山千五郎師をまじえながら、その一部を紹介し、伝承の変化について考察した。入場者数251名。

プログラム

講演	鶴沢清八の義太夫節解説	飯島満
講演	善竹弥五郎の狂言謡	高桑いづみ
実演	大蔵流狂言謡	茂山千五郎

4 無形文化遺産保護分野での国際的研究交流

成 果

6月に韓国国立文化財研究所を訪問し、同研究所の映像記録作成事業の現場を調査するとともに、今後の研究交流についての協議を行った。また、9月にはベトナム文化情報研究所を訪問し、同研究所の無形文化遺産分野における保護活動の取り組みを調査するとともに、今後の研究交流に向けての予備的協議を行った。

研究組織

宮田繁幸、鎌倉恵子、高桑いづみ、飯島満、俵木悟、中司由起子、佐竹悦子、埋忠美沙(以上、無形文化遺産部)、福岡裕子、森下愛子(以上、客員研究員)

左：遍明院鼓胴
 右：歌舞伎絵はがき
 明治40(1907)年4月歌舞伎
 『勧進帳』八代目市川高麗蔵の弁慶

